

様式第6号(第21、22条関係)

開 催 記 録

名 称	令和4年度第1回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和4年7月28日(水) 午後 2時00分から 午後 3時15分まで
開 催 場 所	吉川市役所 303会議室
出 席 者 数	9名 出席委員：菊池委員、小山委員、遠藤委員、戸張委員、阿部委員、 飯塚委員、中島ひろ子委員、佐々木委員、大矢委員 欠席委員：中島隆一委員
説 明 員 氏 名	
担当課職員職氏名	河川下水道課 課長 多田 文武、課長補佐 曾我 幸央
次 第	別添参照
資 料 の 名 称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
内 容	<p>■開会 吉川市議会の常任委員会の改選に伴い議会選出の委員に変更（新委員：遠藤義法委員）があったことを報告。</p> <p>■議事 ○吉川市下水道事業経営戦略の進捗について 事務局より「下水道事業経営戦略の進捗」について説明</p> <p>【質疑応答】 大矢委員：管渠の耐震化対策とはどういうものか？ 事 務 局：管渠の継ぎ目部分を可とう化などを実施する。 大矢委員：昨年度実施した管渠調査において不具合の箇所はあったのか。 事 務 局：多少の管渠のたるみや流入水が原因による石灰化されている箇所が何箇所かあった。石灰化している箇所については、管渠清掃で今後解消していきたい。たるみについては、すぐに通水に影響するものではない。 菊池会長：管渠が全体的に新しいものであるため、老朽化はあまり進ん</p>

でいないと思われる。

遠藤委員：現在の内部留保はどの程度あるのか

事務局：内部留保資金については、現在手持ち資料がないため正確な数字は言えないが、資本的収支不足額の2億2891万9098円よりも大きな数字であることは間違いない。

遠藤委員：経営戦略において、将来的には資金が枯渇するとのことであるが、いつ頃に資金が枯渇するのか、借入金のみで事業を行えるのか。

事務局：本日、いつ資金が枯渇するかについて資料を用意していないので、具体的に説明することはできないが、借入金の返済費用を将来的には賄えなくなると試算されている。そのために将来的に使用料の値上げを実施せざるを得ない状況である。

遠藤委員：吉川駅北口の冠水対策について審議会の中でどのような議論になっているのか。

事務局：吉川駅北口の排水対策については、当審議会でも議論していない。現在、業務委託において排水対策を検討しているところである。

遠藤委員：施設の耐震化については、一部耐震化されていないとのことだが、どの施設が耐震化されていないのか。

事務局：ポンプ施設の耐震化については、ほとんどの施設で耐震化されていないのが実情である。

○令和3年度吉川市下水道事業決算について

事務局より「令和3年度吉川市下水道事業決算」について説明。

【質疑応答】

小山委員：営業外収益中、受取利息がだいぶ少ないように思えるが、いかがか。

事務局：利率がとても低く、通帳残高が2000万円から3億円で変動しており、一時的に資金不足になるような状況なので、受取利息はとても少ない。

遠藤委員：建設改良事業の国庫補助事業の補助率はどの程度なのか、

事務局：国庫補助金の補助率は1/2である。ただし、近年は、ポンプ場に係る国庫補助金は申請額の70%程度の採択となっている。

遠藤委員：資本的収入の一般会計からの負担金とはどういうものか。

事務局：資本的収入のうち一般会計出資金については、交付税措置さ

れている汚水分の償還金元金の経費、一般会計負担金については雨水に関する建設改良費を担当する職員の人件費について一般会計から負担を受けている。

遠藤委員：吉川美南駅東口開発で今後工事費がどのような形で推移していくのか。

事務局：吉川美南駅東口土地区画整理事業地内の下水道管布設工事については、早期使用収益開始を目指し、担当課と協議をしながら、工事可能なところ積極的に工事を進めている。今後についても早期完成を目指し、ここ数年は工事費が増えていくものと思われる。

菊池会長：決算状況を鑑みると経常収支比率や経費回収率などが良好であり、管渠が新しいため、維持管理費経費が低く、有収率も良好で雨水の侵入が少なく、現状としては全体的に良い状況である。しかしながら、キャッシュフロー計算書において、営業活動からの利益を投資的事業における負債額が上回り、借金により現金が増えているという構造になっている。吉川美南駅東口開発を進めることにより建設改良事業が続いていくのは、仕方がないが、費用を回収するまでには時間がかかると思われる。よって、キャッシュフローの厳しい状況は続いていくものと思われ、現金が少ない状況であるので、この現金が枯渇した際には、下水道使用料の値上げなどを行わなくてはならないと予測される。

全国的には、行政区内全域で下水道が普及したが、人口と下水道使用量が減少している中で、管渠が老朽化し、維持管理費が増加していくという厳しい状況になっている団体も多い。吉川市も将来的には厳しい状況になることは間違いない。

吉川美南駅東口土地区画整理事業においても収益が上がるかどうか難しい。なぜなら、東京都では住宅の建設は進んでいるが、人口は増えていない。新しい住宅地への移動が行われており、また、新しい住宅は節水型の住宅となっているため、住宅地は増えても下水道使用量は減っている状況である。吉川市においても将来的に同じ状況になるのではと危惧している。

大矢委員：区画整理事業を実施していても人口が減少しているということだが、区画整理事業自体問題がないのか？

	<p>事務局：今後、使用収益が開始されると人口は増加すると思われる。</p> <p>■その他</p> <p>今後のスケジュールを事務局より説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度吉川市下水道事業決算」について 今後、監査委員による検査を経て、9月議会に上程し、決算の認定となる予定である。 ・このメンバーによる審議会は最後となる。下水道事業経営戦略の策定にご尽力いただきありがとうございました。 令和4年8月に審議委員の変更となるが、引き続き引き受けていただける方については、よろしく願いいたします。 ・「令和4年度第2回吉川市下水道事業審議会」について 令和5年度当初予算案を議案として、令和5年1月下旬ごろ開催予定
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

署名委員

氏名

印

氏名

印
